

令和元（2019）年度事業報告

令和元年7月 1日から
令和2年6月30日まで

1 事業の成果

○日本1DDMネットワークの3つの約束

インスリンの補充が必須な患者とその家族一人ひとりが希望を持って生きられる社会を実現するために、平成22年度に“救う”“つなぐ”“解決する”の3つの約束を掲げました。

そして、平成23年度に開催した日本1DDMネットワーク法人化10周年・1型糖尿病研究基金設立5周年記念シンポジウム開催を機に、ゴールは、2025年に1型糖尿病を「治らない」病気から「治る」病気にする事としました。

さらに、平成25年度には、インスリン補充から解放され病気になる前のもとの体に戻る「根治」に、現在の治療法の改善により体への負担が軽くなり生活の質が向上する「治療」並びにこれから新しく発症する患者を無くして1型糖尿病を完全に克服する「予防」を加えて、1型糖尿病の「根絶」と定義し、「根絶」を最終目標として掲げました。

その約束を果たすための令和元年度の主な取り組みは以下のとおりです。

○“救う”－患者と家族の皆さんに私たちの経験を還元します。

患者の祖父母や学校・幼稚園等への説明用パンフレット、ジューCグルコース及び1型糖尿病〔IDDM〕お役立ちマニュアルPart1～5の配布、電話・メール等での相談対応、ホームページやフェイスブック等での情報発信、メールマガジンの配信などに取り組みました。

特に新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、国の情報を取りまとめ、専門医監修によるFAQを加える等して、重症化リスクの高い患者・家族のために情報提供を行いました。

相談対応については、AI（人工知能）を活用したシステムを2020年中の稼働を目指して取組中です。ホームページは、平成30年7月にリニューアルオープンしましたが、さらに見やすくするための改善を続けています。

政策提言では、難病法（「難病の患者に対する医療等に関する法律」、平成27年1月1日施行）に基づく対象疾病「指定難病」となり20歳以上の患者も医療費助成が実現することを目指して取り組みましたが、実現に至っていません。今後とも専門家とも連携して対応して行きます。

発症初期の患者と家族にとって必要なもの（専門医監修によるわかりやすい医療情報冊子、療養に必要な医療機器やインスリン製剤の一覧、患者・家族の体験談等）を詰め込んだ「希望のバッグ」（平成26年11月配布開始）プロジェクトは、スポンサー企業の皆様のおかげで好評のまま継続することができました。1型糖尿病が「治る」病気になるまで継続する必要がありますので、毎年発症している全国の患者全員（2000人を見込）に届けることができるよう今後とも重点事業として取り組んで行きます。

また、企業のご支援により、「1型糖尿病患者・家族とともに歩む祖父母向けパンフレット」を改訂することができ、「学校、幼稚園、保育園、認定こども園の先生のための1型糖尿病対応マニュアル」も次年度早々に完成しますので、当バッグにも詰めて、啓発して行きます。

加えて、インスリン補充が必要な2型糖尿病患者のための希望のバッグ（平成29年12月配布開始）の送付もスポンサー企業の皆様のご支援により継続することができました。

“第3回 IDDM こども会議”を大阪市で開催し、1型糖尿病の子どもたちが大人の2型糖尿病患者へインスリンの早期導入の重要性を啓発しました。

認定特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン様の協力を得て“低血糖アラート犬”育成に取り組み、2頭（アニモ、アロエ）が患児との共同生活に向けた訓練に入っており、次年度には家族の一員になる見込みです。

1型糖尿病患者・家族のための社会福祉（医療費・障害年金など）セミナーは大好評で終えることができました。

なお、患者への奨学金給付及び起業支援は該当者がありませんでした。

○ “つなぐ”

－患者・家族と研究者、医療者、企業、行政、そして社会とつなぎます。

カーボカウント&先進デバイス活用セミナーは、新型コロナウイルスの影響により対面型で1回、WEB（オンライン）セミナーで1回の開催にとどまりましたが、参加者には引き続き好評で、多くの医療関係者にも参加いただき、確実に医療・療養環境の充実につながっています。WEB（オンライン）セミナーは、初開催でしたが国内各地のみならず海外からも参加がありました。

IDDM 白書（1型糖尿病 IDDM レポート 2019）の発行に加え、テレビ、新聞、映画（吉永小百合さん、天海祐希さん主演「最高の人生の見つけ方」）等でも多数取り上げていただき、1型糖尿病の認知度がさらに向上したと認識しています。

新型コロナウイルスによる重症患者を受け入れ、医療物資が不足する国立病院機構大阪医療センターに対し、特定非営利活動法人アジアパシフィックアライアンス・ジャパン様のご協力によりサージカルマスク、ビニールガウン、森永製菓株式会社様のinゼリー、ユニリーバ社様のワセリンクリーム等を届けることができました。

また、新たな寄付の形として、三井製糖株式会社様は株主優待制度として自社製品等に代えて日本 IDDM ネットワークへの寄付を選択いただける「寄付優待制度」を導入されました。この制度を通じて462名の株主様より1,498,000円の寄付を頂戴しました。さらに、大和証券株式会社様からは「グローバル全生物ゲノム株式ファンド（1年決算型）」の販売を通じて得られる収益の一部として4,365,804円の寄付を頂戴しました。

○ “解決する”

－研究者の方々に研究費を助成し、1型糖尿病の根治への道を開きます。

1型糖尿病の治療につながるあらゆる先進的な研究を応援する「1型糖尿病研究基金」による公募型の14回研究費助成は、寄付者の方の思いにそった冠基金である「岩田稔基金（400万円）」及び「柳瀬美穂1型糖尿病研究基金

(400万円)」を加え、過去最高額となる1000万円の助成を4つのテーマに対し行いました。

佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定ふるさと納税を財源として、5テーマで6100万円の研究費助成を行いました。

資金循環型（研究成果が出た場合は1型糖尿病研究基金へ資金をリターン）の研究支援第3号として「レプチン受容体シグナルを介した1型糖尿病の新規治療開発」に対し名古屋大学と1000万円（年間200万円を5年間継続）、第4号として「ダニ虫体抗原による1型糖尿病の根治治療」に対し北里研究所と300万円（年間100万円を3年間継続）の資金提供契約を締結しました。

Yahoo!ネット募金を財源として、「ウイルス糖尿病高感受性マウスの開発ー糖尿病誘発性ウイルスの同定によるワクチン開発を目指してー」に対して佐賀大学へ100万円、「マクロカプセル化膵島皮下移植システムの研究」に対して京都大学再生医科学研究所へ250万円の研究費助成を行いました。

“冠基金”である「山田和彦1型糖尿病根治基金」を財源にした「第2回山田和彦賞」では、過剰な免疫反応の暴走を抑える「制御性T細胞」の発見・研究に功績をあげられた坂口志文大阪大学免疫学フロンティア研究センター実験免疫学・特任教授に1000万円を贈りました。

このほか、国立病院機構京都医療センターが中心になって取り組む「1型糖尿病におけるフラッシュグルコースモニタリングが低血糖も含む血糖コントロールとQOL改善に及ぼす効果の研究」への緊急助成や継続助成を含め、本年度は21件1億150万円の助成を行いました。2008年度に研究助成を開始して以来、件数では最多、金額では2016年度以来2度目の1億円超となりました。

これにより累計では、助成件数83件、助成金額4億850万円となりました。

1型糖尿病の根治、治療、予防に向けた研究がさらに進むことを期待しています。

『1型糖尿病 2025年「治らない」から「治る」へ』をテーマに据えた日本IDDMネットワークサイエンスフォーラムは、新型コロナウイルスの影響で延期し、その代替策として、WEB（オンライン）で2020年9月に開催することとしました。

これまで研究助成を行った研究機関へ患者・家族が出向き研究の状況を発信する「研究室訪問」は「バイオ人工膵島移植プロジェクト」の中心的な施設である「細胞加工施設（CPC）」が完成した国立国際医療研究センターで実施しました。その後は、新型コロナウイルスの影響で実施できませんでした。

しかしながら、1型糖尿病を「治る」病気に変えようとしている医療者・研究者や患者・家族のみならず病気を知らない方々の“参加”も得て、「治る」病気になることへの期待感や研究者のモチベーションが高まっています。

1型糖尿病“根絶”のため、寄付に対し税制優遇措置が受けられる全国初の所轄庁（都道府県・政令市）認定特定非営利活動法人としての利点をいかすために様々なメニュー（基金の名前や金額、助成対象などを自由に決められる、寄付者の方の思いに合ったプログラム“冠基金”、販売額の一定割合を寄付する寄付つき商品、家庭や職場で不要になった本を提供していただく“ノーモア注射希望の本プロジェクト”、書き損じ・未使用のはがきを提供していただく

“書き損じはがきプロジェクト”、家庭に眠っている貴金属、アクセサリー等を提供していただく“お宝エイド”、売上の一部が寄付になる“希望の自動販売機プロジェクト”等)を用意して寄付のお願いをしました。

多彩なメニューによる取り組みもあり、本年度の1型糖尿病研究基金には25,398,031円(佐賀県庁へのふるさと納税を除く)がよせられました(前年度比16%減)。

様々な寄付メニューの中でも、ノーモア注射マンスリーサポーター(1口1,000円を毎月口座から自動的に引き落とし)の強化に取り組み、857.5口380名(前年度比101名増)となりました。

ソフトバンク株式会社様には「つながる募金」(スマートフォン等から簡単に寄付ができるサービス)並びに「チャリティモバイル」(専用WEBから対象機種を新規または機種変更で契約いただくと、ソフトバンク株式会社様が、6,000円+毎月の利用料金の3%を当法人へ2年間に寄付)でご支援をいただいておりますが、期待に応えられる実績はあがっていません。

ヤフー株式会社様には、Yahoo!ネット募金でご協力をいただき、6月末の累計で約19000人の方々から約480万円の寄付を頂戴しています。

本年度で6年目となる「日本IDDMネットワーク」を指定した佐賀県庁へのふるさと納税(寄付)では、佐賀県とふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」(株式会社トラストバンク運営)のご協力もあり、令和元年度(佐賀県庁の会計年度:4月-3月)は2906件、106,296,795円と、前年度比26%増となりました。令和2年度(同)は、6月末現在で342件、13,423,235円の指定寄付を頂戴しており、前年同期比23%減となっています。寄付額の90%(令和2年4月から95%が90%へ変更)が佐賀県庁から当法人へ寄付される予定です。主に研究費助成のために活用します。

特に「ふるさとチョイス」のガバメントクラウドファンディング(用途を明確にしたふるさと納税型クラウドファンディング)では、「針を刺す必要のない血糖値センサーの開発」のために山川考一国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構レーザー医療応用研究グループリーダーへ2500万円、「臨床応用にむけたバイオ人工膵島の長期生着に関する研究-各施設と複合的な連携体制を目指して-」のために小玉正太福岡大学基盤研究機関再生医学研究所長へ1000万円、「臨床応用を目指したバイオ人工膵島移植の開発-各施設と複合的な連携体制を目指して-」のために霜田雅之国立国際医療研究センター研究所膵島移植プロジェクト長へ1000万円、「バイオ人工膵島移植実現に向けた感染症検査体制の構築」のために井上亮摂南大学農学部応用生物科学科動物機能科学研究室教授へ600万円、「1型糖尿病におけるフラッシュグルコースモニタリングが低血糖も含む血糖コントロールとQOL改善に及ぼす効果の研究」のために村田敬国立病院機構京都医療センター糖尿病センター医長へ1000万円の研究費助成を実現することができました。

今後の研究進展に益々期待しています。

ふるさと納税にあたっては、たくさんの応援メッセージを頂戴しています。

「1型糖尿病のことをはじめて知った」というメッセージもあり、この研究支援寄付が1型糖尿病の啓発にも大きく寄与しています。令和2年4月からは、1型糖尿病を引き起こすウイルスのワクチン開発に焦点をあて、佐賀大学医学部肝臓・糖尿病・内分泌内科の永淵正法特任教授の研究グループに対する研究

助成のために「ふるさとチョイス」のガバメントクラウドファンディングで取り組んでいます。

また、令和2年3月からは、東京大学医科学研究所の山口智之特任准教授の研究グループが取り組む「iPS細胞から膵臓を作る」プロジェクトに対する研究助成のために朝日新聞社のクラウドファンディングサイトA-portで取り組んでいます。

第9回大阪マラソンで初のチャリティ寄付先団体に選ばれ、2,645,620円の寄付をいただき、「1型糖尿病におけるフラッシュグルコースモニタリングが低血糖も含む血糖コントロールとQOL改善に及ぼす効果の研究（低血糖激減プロジェクト）」への研究助成の一部に活用させていただきました。引き続き、第10回大阪マラソンのチャリティ寄付先団体に選ばれましたが、新型コロナウイルスの影響で残念ながら令和2年は中止となりました。

平成23年1月に発足した『1型糖尿病「治らない」から「治る」―“不可能を可能にする”―を応援する100人委員会』の委員は143名となりました（本年度4名就任）。ノーベル医学・生理学賞を受賞された京都大学iPS細胞研究所長の山中伸弥氏をはじめ、作家・映画監督の村上龍氏、プロ野球阪神タイガースの岩田稔氏、京都大学名誉教授の西川伸一氏、国立国際医療研究センター研究アドバイザーの松本慎一氏ほか様々な分野の方々に“参加”いただいています。加えて『1型糖尿病「治らない」から「治る」―“不可能を可能にする”―を応援する希望の100社委員会』は22企業・団体（本年度3社就任）で、「治る」活動支援等の参加表明をいただいています。

なお、研究経過・成果報告会は中止しました。

2020年は、創設25周年、法人化20周年の年ですが、新型コロナウイルスの影響によるイベントの中止、延期、企業寄付の減少等により、このままではあと1年が活動の限界という事態に直面しています。

しかしながら、2025年には1型糖尿病が“治る”病気になるという期待感が年々高まっており、次年度も、研究への投資、オンラインセミナーの強化等、常に改善を意識してチャレンジを続けます。

また、日本IDDMネットワークは平成12年に佐賀県に本部を移転した団体として、地元佐賀県へ貢献することを目指しています。

本年度は、公益財団法人佐賀未来創造基金と佐賀県庁が「コロナと戦う医療にエールを！」として立ち上げられた緊急支援募金に対し、ふるさと納税でいただいた寄付の一部を活用して30万円を贈りました。この寄付金は、佐賀県内で新型コロナウイルス対策に対応中の医療従事者の方々の危険手当アップや自宅に帰れず宿泊している方々への費用補助などに活用される予定です。この取り組みにより令和2年6月4日の山口祥義佐賀県知事臨時記者会見で「佐賀支え愛サポーター」として当法人も紹介されました。

次年度以降も、本部所在地である佐賀県への貢献を意識して取り組みます。

管理運営面では、年々業務が拡大しており、業務委託を進めながらも役職員が相当無理をしています。井上理事長は体調面から以前のような状態での業務は困難であり、大村副理事長は他業務との兼任で業務が遅れがちになっていま

す。事務局は、有給職員9名（全員がパートタイマー、6名は在宅勤務）及び外部委託（2社に委託）による体制としましたが、外部委託では限界があり、常勤、フルタイムの役職員体制強化が必須です。

徐々に充実した事務局体制になりつつありますが、役員は全員無給で職員の給与水準は低いままです。所要の改善が必要な状況にありますがその目途は未だに立っていません。

また、今年度も延91名のボランティアの方々に助けられました。

なお、非営利組織を対象に民間の第三者機関として組織評価を行う一般財団法人非営利組織評価センター様より、信頼ある非営利組織の証しとして「グッドガバナンス認証」を付与されました。

日本IDDMネットワーク全体としては、過去最高の収益となり、事業規模は5年連続で1億円を超え、患者・家族のみならず一般社会を巻き込んだ共感の輪は広がり、評価も高まりつつあります。

しかしながら、新型コロナウイルスの影響もあり、次年度は正念場を迎えます。

2 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
ネットワークの拡大・支援					患者及びその家族等	0
ネットワークの拡大・支援	<p>○地域患者・家族会等の下記の事業に対し、後援を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つぼみの会愛知・岐阜主催 「令和元年度1型糖尿病患児の療養および学校との連携についての教職員向け研修会」 ・西日本新聞社主催 「糖尿病市民公開講座 ～糖尿病管理の最新事情「血糖トレンド(変動)」を見ていますか?」 ・つぼみの会三重主催 2019年度「1型糖尿病先生方と患者・家族との研修会」 ・岡山小児糖尿病協会主催 「第8回1型糖尿病患児の療養及び学校との連携についての研修会」 ・佐賀県糖尿病協会、佐賀糖尿病療養指導士会等主催 「第10回佐賀type1DMサロン」 ・糖尿病治療研究会、糖尿病ネットワーク、糖尿病リソースガイド主催 「10月8日は、糖をはかる日」講演会2019年度 	7月31日	名古屋市	1人	111人	
		8月4日	福岡市	1人	341人	
		8月13日	津市	1人	82人	
		8月24日	岡山市	1人	63人	
		9月15日	鳥栖市	1人	38人	
		10月3日	東京都	1人	110人	
情報収集提供・政策提言					患者及びその家族等	9771
情報収集提供・政策提言	<p>○発症初期の1型糖尿病患者と家族にとって必要な情報を詰め込んだ「希望のバッグ」を配布した。</p> <p><バッグに入っているもの></p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門医による医療情報冊子「1型糖尿病とその治療について最初を知ってほしいこと」 ・療養に必要な医療機器やインスリン製剤の一覧 ・祖父母向けパンフレット ・学校、幼稚園、保育園への説明用パンフレット ・注射器や血糖測定器を入れるポーチ <p>ほか</p>	通年	東京都 安城市 佐賀市 大津町 ほか	12人	1308人	
情報収集提供・政策提言	<p>○インスリン補充を必要とする2型糖尿病患者向けの「希望のバッグ」を配布した。</p> <p><バッグに入っているもの></p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門医がわかりやすく解説したインスリン治療の冊子「『インスリン注射が必要』と言われてる2型糖尿病患者さんへ」 ・専門医による医療情報冊子「1型糖尿病とその治療について最初を知ってほしいこと」 ・療養に必要な医療機器やインスリン製剤の一覧 ・注射器や血糖測定器を入れるポーチ ・1型糖尿病の子どもたちからのメッセージDVD <p>ほか</p>	通年	東京都 安城市 佐賀市 大津町 ほか	12人	63人	
情報収集提供・政策提言	<p>○以下の政策実現に向けて取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難病指定による20歳以上の患者への公的支援の実現に向けて専門医との意見交換を行った。 ・膵島移植の保険適用の実現、移植膵島の有効活用に向けて、専門医とともに厚生労働省との意見交換を行った。 ・診療報酬の改定後の解釈、運用について厚生労働省との情報交換、意見交換を行った。 ・ブタ体内でのヒトの膵臓作成等について文部科学省との意見交換を行った。 	通年	東京都 安城市	1人	36万人	
情報収集提供・政策提言	<p>○1型糖尿病患者の祖父母向けパンフレットを患者・家族等へ配布した。</p> <p>6月には改訂版を7000部作成した。</p>	通年	佐賀市 ほか	7人	3万人	
情報収集提供・政策提言	<p>○東京学芸大学と協働で作成した学校、幼稚園等での説明用パンフレット「教えて、りんりん! RinRin 1型糖尿病ってどんな病気?」を患者・家族等へ配布した。</p>	通年	佐賀市 ほか	4人	3万人	
情報収集提供・政策提言	<p>○カバヤ食品(株)様から提供いただいたブドウ糖(グルコース)を主成分とした手軽な糖分補給が可能なタブレット「ジュールCグルコース」を患者・家族等へ配布した。</p>	通年	佐賀市 ほか	4人	36万人	
情報収集提供・政策提言	<p>○オウンドメディア『PRESS IDDM』で糖尿病に関する様々な情報発信を行った。</p>	通年	船橋市 大津町 ほか	4人	36万人	
情報収集提供・政策提言	<p>○Facebookで1型糖尿病に関する情報発信を行い、585,825人(前年度比18%減)のリーチがあった。</p>	通年	船橋市 神戸市 福岡市 佐賀市 熊本市 大津町	7人	36万人	
情報収集提供・政策提言	<p>○アストラゼネカ株式会社主催「1型糖尿病プレスセミナー」において、大村詠一専務理事が講演を行い、1型糖尿病患者が日々の生活で直面する問題や今後期待する治療法、正確な情報発信の重要性について語った。</p>	7月11日	東京都	1人	36万人	

2 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
情報収集提供・政策提言	○「第3回IDDM子ども会議」を開催した。 ・講演「初心者のためのカーボカウントセミナーと実践」 川村智行 大阪市立大学医学部附属病院小児科新生児科講師 ・1型糖尿病の子どもからの2型糖尿病患者さんへメッセージ ・講演「仲間がいるから、強くなる」 自転車競技選手 田仲駿太さん ・楽しく続ける運動法について 元陸上競技選手 中新井美波さん 元エアロビック競技日本代表 大村詠一 副理事長 ・低血糖アラート犬の紹介 ・講演「【針を刺さない血糖値センサー】の開発について」 山川考一 ライトタッチテクノロジー株式会社代表取締役社長	9月16日	大阪市	25人	171人	
情報収集提供・政策提言	○日本イーライリリー株式会社主催プレスセミナー『「糖尿病患者さんと家族の意識調査から見る、重症低血糖の実態」～「世界糖尿病デー」を控え、患者さんのサポートをする家族の重要性を考える～」』に大村副理事長が出演し、自身の低血糖に関する経験や血糖値管理の大変さを語った。	10月29日	東京都	1人	36万人	
情報収集提供・政策提言	○難病・慢性疾患全国フォーラム実行委員会主催「難病・慢性疾患全国フォーラム2019-誰もが安心して医療が受けられる社会を目指して-」に大村詠一 副理事長が出演し、1型糖尿病の社会保障の現状や活動内容を紹介した。	11月9日	東京都	1人	36万人	
情報収集提供・政策提言	○1型糖尿病患者・家族のための社会福祉(医療費・障害年金など)セミナーを開催した。	11月16日	東京都	17人	83人	
情報収集提供・政策提言	○「1型糖尿病IDDMレポート2019」を10000部作成し、ホームページでも公開した。	11月	安城市 佐賀市 大津町 ほか	8人	36万人	
情報収集提供・政策提言	○カーボカウント&先進デバイス活用セミナーを開催した。なお、名古屋市、大阪市及び東京都で予定していた3回は新型コロナウイルス感染症による影響で中止した。	1月25日	東京都	18人	116人	
情報収集提供・政策提言	○厚生労働省の新型コロナウイルスに関する情報のまとめページ、糖尿病専門医6名の監修によるFAQページ、自宅でできるエクササイズ動画などを作成し公開した。	3月24日	大津町 熊本市	3人	36万人	
情報収集提供・政策提言	○1型糖尿病患者が聞く「新型コロナウイルス勉強会(オンライン)」を開催した。	4月18日	大津町	2人	36万人	
情報収集提供・政策提言	○カーボカウント&先進デバイス活用WEB(オンライン)セミナーを開催した。	5月9日	大津町	12人	171人	
情報収集提供・政策提言	○リーフレット『「治らない」から「治る」へ』を改訂し、10000部増刷した。	6月	佐賀市	3人	36万人	
調査研究					患者及びその家族等	14088
調査研究	○認定特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンと協働し低血糖アラート犬の養成を行った。 その資金源及び啓発のために、低血糖アラート犬チャリティTシャツの販売を開始した。 この取り組みは、書籍「はたらく犬たち」(金の星社)やNHK WORLD-JAPAN の「NHK NEWSLINE」News Room Tokyo、TBSテレビ「笑える!泣ける!動物スクープ100連発」、まいどなニュースで紹介された。	通年	岡山市 神石高原町 佐賀市 大津町 ほか	7人	36万人	
調査研究	○相談対応等について、AI(人工知能)を活用したシステム開発に取り組んだ。	通年	東京都 佐賀市 ほか	5人	36万人	
調査研究	○1型糖尿病患者・家族等に必要情報を網羅した「1型糖尿病[IDDM]お役立ちマニュアル」Part1からPart5(別冊を含む6種類)を配布・販売した。Part4(先端医療編)については無償配布を開始し、その他のマニュアルは、新型コロナウイルス感染症の影響等により価格改定(値下げ)を行った。	通年	佐賀市 ほか	6人	36万人	
調査研究	○経済的事由で大学への進学が困難となっている1型糖尿病患者が、1型糖尿病根絶のために研究者、医療者を目指すことを応援するための「1型糖尿病根絶奨学金」による給付型奨学金(返還不要)の募集を行ったが、該当者は無かった。	通年	佐賀市 ほか	4人	36万人	
調査研究	○社会的課題の解決という夢の実現に向けて努力している1型糖尿病患者を応援するため「1型糖尿病患者起業支援基金」による起業支援募集を行ったが、該当者は無かった。	通年	佐賀市 ほか	4人	36万人	
調査研究	○スタンフォード大学が開発した「セルフマネジメントプログラム」の普及に取り組む特定非営利活動法人日本慢性疾患セルフマネジメント協会への協力を行った。	通年	船橋市 佐賀市	2人	36万人	
調査研究	○阪本雄一郎佐賀大学医学部附属病院高度救命救急センター長が中心になって取り組む災害時の糖尿病患者支援アプリ作成等に協力を行った。	通年	佐賀市 ほか	3人	36万人	

2 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
関係団体との連携					患者及びその家族等	346
関係団体との連携	○新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、国立病院機構大阪医療センター糖尿病内科(1型糖尿病センター併設)からの要請を受け、特定非営利活動法人アジアパンフィックアライアンス・ジャパン(本部:佐賀市)の尽力によりサージカルマスク、ビニールガウン等を届けることができた。	5月～	大阪市	1人	36万人	
関係団体との連携	○公益財団法人佐賀未来創造基金と佐賀県庁とが協働して取り組む「コロナと戦う医療にエールを！」緊急支援募金(新型コロナウイルス感染症に対応中の医療従事者への支援に活用)に対し、認定特定非営利活動法人佐賀県難病支援ネットワークとともに50万円(当法人はふるさと納税で頂戴した寄付の一部30万円を活用)の支援を行った。この取り組みに対し、山口祥義佐賀県知事臨時記者会見(6月4日)において「佐賀支え愛サポーター」として当法人が紹介されたほか、佐賀新聞、朝日新聞、サガテレビで取り上げられた。	5月27日	佐賀市	2人	2千人	
普及啓発					患者及びその家族等	164
普及啓発	○「僕はまだがんばれるー“不治の病”1型糖尿病患者、大村詠一の挑戦ー」(じゃこめてい出版)を配布・販売した。	通年	佐賀市 大津町 ほか	5人	36万人	
普及啓発	○全国各地の小・中学校、企業、サマーキャンプ、イベント等で、大村詠一副理事長が1型糖尿病に関する講演を22回行った。	通年	全国各地	1人	36万人	
普及啓発	○阪神タイガース岩田投手(1型糖尿病患者)の患者との試合観戦・交流会(阪神タイガース対横浜DeNAベイスターズ戦)に協力し、阪神タイガース公式サイトにおいて交流会の様子が紹介された。	7月23日 7月25日	西宮市	6人	46人	
普及啓発	○Asian Beauty Project主催「ビューティーチャリティFamily Photo(チャリティー撮影会)会」が開催され、参加費の50%が低血糖アラート犬プロジェクトへ寄付された。	7月28日	東京都	1人	36万人	
普及啓発	○三井製糖株式会社様による株主優待制度による寄付金(1,498,000円)の贈呈セレモニー並びに三井製糖株式会社雑賀大介代表取締役社長、鈴木康史経営企画部長と井上龍夫理事長、岩永幸三副理事長による対談が開催された。	8月1日	東京都	2人	36万人	
普及啓発	○月刊H&Bリテイルにおいて、「1型糖尿病の患者ケアの充実と、将来の根絶を目指して」と題して当法人の活動が紹介された。	9月1日	安城市	1人	36万人	
普及啓発	○吉永小百合さん、天海祐希さん主演の映画「最高の人生の見つけ方」に協力し、映画のエンドロール及びパンフレットで当法人が紹介された。	10月11日	全国各地	5人	36万人	
普及啓発	○明治維新150年の節目を迎えた2018年に誕生した「第2回さがが維新まつり」に協賛し、「1型糖尿病 治る未来へ」と名入れた提灯で周知を行った。	10月19日	佐賀市	2人	36万人	
普及啓発	○Asian Beauty Project主催「ビューティーチャリティ撮影会&タイムカプセルフォトレーター」が開催され、参加費の50%が低血糖アラート犬プロジェクトへ寄付された。	10月22日	東京都	1人	36万人	
普及啓発	○朝日新聞において、阪神タイガースの岩田投手の記事「投げることで伝えたい 闘病19年、阪神岩田がいま語る」が掲載され、当法人の会員限定イベント「岩田投手と患者・家族との交流イベント」等について紹介された。	1月4日	福岡市	1人	36万人	
普及啓発	○LINE NEWSにおいて、阪神タイガースの岩田投手の記事「1型糖尿病の阪神・岩田 闘病者の思いを背負って投げ続ける～覚悟と決意を持って～」が掲載され、当法人を始め1型糖尿病についても紹介された。	2月14日	安城市	1人	36万人	
普及啓発	○毎日新聞において「新型コロナ リスクに向き合う」と題した記事で、大村詠一副理事長のコメントが掲載された。	4月17日	大津町	1人	36万人	
普及啓発	○東京新聞において「<コロナ 医療を守ろう>糖尿病患者、行き場なく 感染者以外制限「命を守るため」と題した記事で、大村詠一副理事長のコメントが掲載された。	4月18日	大津町	1人	36万人	
普及啓発	○週刊ベースボールONLINEにおいて「同じ病の子どもたちを守りたい 阪神・岩田のSTAY HOMEメッセージ」と題した記事で、当法人のYouTubeで配信されている阪神タイガース岩田投手による動画メッセージが紹介された。	5月23日	大津町	2人	36万人	
普及啓発	○日本経済新聞において「糖尿病 血糖値管理徹底を 新型コロナで重症化リスク 自己判断せず医師に相談/オンラインの講座も活用」と題した記事で「カーボカウント&先進デバイス活用WEBセミナー」が紹介され、大村詠一副理事長のコメントが掲載された。	5月27日	大津町	1人	36万人	
普及啓発	○日本経済新聞において「遠隔診療も選択肢 体制整備、課題も」と題した記事で大村詠一副理事長のコメントが掲載された。	5月27日	大津町	1人	36万人	
普及啓発	○ニューズウィーク日本版等で紹介された『H2株式会社「糖尿病(慢性疾患)におけるパンデミックの影響と通院・診療課題に対する意識調査」を公表』で、大村詠一副理事長のコメントが掲載された。	6月12日 6月13日	大津町	1人	36万人	

2 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
療育相談					患者及びその家族等	941
療育相談	○電子メール(270件)、SNS(41件)、面談(9件)、相談電話(233件)、ホームページ(840,511件)等を通して、様々な相談等に対応した。	通年	船橋市 東京都 安城市 木津川市 佐賀市 大津町 和水町 ほか	10人	36万人	
会報発行					患者及びその家族等	1269
会報発行	○会員等への情報提供として活動報告レポートを8400部発行した。	6月	佐賀市 ほか	9人	36万人	
会報発行	○会員等への情報提供として、メールマガジンを配信した。	10月24日 11月14日 11月27日 12月14日 2月5日 3月2日 3月11日 3月30日 4月22日 5月9日 5月22日 6月1日 6月5日	福岡市 佐賀市 熊本市 ほか	9人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成					患者及びその家族等	101500
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○第2回山田和彦賞を坂口志文大阪大学免疫学フロンティア研究センター実験免疫学・特任教授に授与(賞金1,000万円)した。 ・過剰な免疫反応の暴走を抑える「制御性T細胞」の発見・研究	9月24日	安城市 佐賀市	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○研究成果により当該研究機関が対価を得た場合、提供した金額を上限にその研究資金が当法人に還元され、その還元された資金で別の研究機関を支援する「循環型研究資金」として以下の研究に資金提供を行った。 ・レプチン受容体シグナルを介した1型糖尿病の新規治療開発 研究代表者:坂野僚一 名古屋大学総合保健体育科学センター准教授、 伊藤禎浩 名古屋大学大学院医学系研究科助教 研究資金:200万円(契約に基づく循環型研究資金)×2年分(計400万円)	9月30日 6月8日	安城市 佐賀市	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○1型糖尿病根絶につながるあらゆる研究を支援する1型糖尿病研究基金により下記研究に助成を行った。 ・1型糖尿病におけるフラッシュグルコースモニタリングが低血糖も含む血糖コントロールとQOL改善に及ぼす効果の研究 研究代表者:村田敬国立病院機構京都医療センター糖尿病センター内科医長 助成額:600万円	12月2日	安城市 佐賀市	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○佐賀県庁の協力により実施した「日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税」による寄付金を財源とし、下記研究に助成を行った。 ・針を刺す必要のない血糖値センサーの開発 研究代表者:山川考一国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 レーザー医療応用研究グループリーダー 助成額:2,500万円	12月10日	安城市 佐賀市	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○佐賀県庁の協力により実施した「日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税」による寄付金を財源とし、下記研究に助成を行った。 ・臨床応用にむけたバイオ人工膵島の長期生着に関する研究 研究代表者:小玉正太福岡大学基盤研究機関再生医学研究所長 助成額:1,000万円	3月25日	安城市 佐賀市	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○佐賀県庁の協力により実施した「日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税」による寄付金を財源とし、下記研究に助成を行った。 ・臨床応用を目指したバイオ人工膵島移植の開発 研究代表者:霜田雅之国立国際医療研究センター研究所膵島移植プロジェクト長 助成額:1,000万円	3月25日	安城市 佐賀市	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○佐賀県庁の協力により実施した「日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税」による寄付金を財源とし、下記研究に助成を行った。 ・1型糖尿病におけるフラッシュグルコースモニタリングが低血糖も含む血糖コントロールとQOL改善に及ぼす効果の研究 研究代表者:村田敬独立行政法人国立病院機構京都医療センター糖尿病センター医長 助成額:1,000万円	4月7日	安城市 佐賀市	3人	36万人	

2 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○佐賀県庁の協力により実施した「日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税」による寄付金を財源とし、下記研究に助成を行った。 ・バイオ人工膵島移植実現に向けた感染症検査体制の構築 研究代表者:井上亮撰南大学農学部応用生物科学科動物機能科学研究室教授 助成額:600万円	4月9日	安城市 佐賀市	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○1型糖尿病の根絶につながるあらゆる研究を応援する「1型糖尿病研究基金」助成対象課題の中で継続助成を希望された研究課題の中から下記の4件へ助成を行った。 ・1型糖尿病に対するIL-7R標的Antibody-drug conjugate(ADC)の開発(継続2年目) 研究代表者:安永正浩国立がん研究センター・先端医療開発センター・新薬開発分野ユニット長 助成額:100万円 ・1型糖尿病に対する根治治療としての自己由来脂肪幹細胞から作成したinsulin producing cell自家移植法臨床応用に関する研究開発(継続2年目) 研究代表者:池本哲也徳島大学病院消化器・移植外科 特任准教授 助成額:100万円 ・1型糖尿病を発症しない動物モデルの確立と発症抑制機序の解明(継続4年目) 研究代表者:宮寺浩子筑波大学医学医療系助教、国立国際医療研究センター研究所肝炎・免疫研究センター客員研究員 助成額:100万円 ・自然免疫系を標的とした1型糖尿病の治療法開発(継続3年目) 研究代表者:福井竜太郎東京大学医科学研究所感染症伝達学分野助教 助成額:100万円	4月20日 4月27日 6月15日 6月29日	安城市 佐賀市 ほか	8人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○1型糖尿病の根絶につながるあらゆる研究を応援する「1型糖尿病研究基金」の第14回研究助成課題の公募を行い、11件の応募の中から下記の4件へ助成を行った。 ・One to one 移植を目指したMuse細胞と膵島の共移植 研究代表者:伊藤泰平藤田医科大学医学部移植・再生医学 准教授 助成額:100万円 ・ニューレグリン1による膵β細胞への分化転換を介した1型糖尿病に対する新規治療法の開発 研究代表者:合田亘人早稲田大学理工学術院教授 助成額:400万円(柳瀬美穂1型糖尿病研究基金による助成) ・エクソソームによる膵β細胞保護・増殖効果の研究 研究代表者:浅原俊一郎神戸大学医学部付属病院糖尿病・内分泌内科 助教 助成額:400万円(岩田稔基金による助成) ・細胞内代謝異常への介入に着目した1型糖尿病治療の探究 研究代表者:野本博司北海道大学病院内科Ⅱ 助教 助成額:100万円	5月8日 5月27日 6月18日	安城市 佐賀市 大津町 ほか	12人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○研究成果により当該研究機関が対価を得た場合、提供した金額を上限にその研究資金が当法人に還元され、その還元された資金で別の研究機関を支援する「循環型研究資金」として以下の研究に資金提供を行った。 ・ゲノム編集技術を用いた自己免疫機能の改変による自然発症1型糖尿病モデルマウスの開発 研究代表者:谷原史倫徳島大学生物資源産業学域特任助教 研究資金:200万円(契約に基づく循環型研究資金)	6月17日	安城市 佐賀市	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○Yahoo!ネット募金による寄付金を財源として、下記研究に助成を行った。 ・ウイルス糖尿病高感受性マウスの開発ー糖尿病誘発性ウイルスの同定によるワクチン開発を目指してー 研究代表者:永淵正法佐賀大学医学部肝臓・糖尿病・内分泌内科特任教授/九州大学名誉教授 助成額:100万円	6月24日	安城市 佐賀市 大津町	4人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○研究成果により当該研究機関が対価を得た場合、提供した金額を上限にその研究資金が当法人に還元され、その還元された資金で別の研究機関を支援する「循環型研究資金」として以下の研究に資金提供を行った。 ・ダニ虫体抗原による1型糖尿病の根治治療 研究代表者:中村和希北里大学獣医学部 特任教授 研究資金:100万円(契約に基づく循環型研究資金)	6月25日	安城市 佐賀市	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○Yahoo!ネット募金による寄付金を財源として、下記研究に助成を行った。 ・マクロカプセル化膵島皮下移植システムの研究 研究代表者:角昭一郎京都大学再生医科学研究所准教授 助成額:250万円	6月29日	安城市 佐賀市 大津町	4人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) シンポジウム					患者及びその家族等	274
1型糖尿病研究基金 (特別会計) シンポジウム	○サイエンスフォーラム2020 in 東京を6月6日に予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により延期した。	12月～	安城市 福岡市 佐賀市 大津町 ほか	12人	36万人	

2 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金(特別会計) 広報					患者及びその家族等	23308
1型糖尿病研究基金(特別会計) 広報	○1型糖尿病「治らない」から「治る」-「不可能を可能にする」-を応援する100人委員会の委員が143名となった。 <100人委員会の役割> ・不可能を可能にするこの取り組みを「社会に発信」する。 ・不可能を可能にするこの取り組みの「戦略に助言」する。 ・不可能を可能にするこの取り組みに「参加」し患者と家族に勇気を与える。	通年	船橋市 安城市 佐賀市	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計) 広報	○1型糖尿病「治らない」から「治る」-「不可能を可能にする」-を応援する希望の100社委員会の委員が、22社・団体となった。各社・団体からは、様々な「治る」活動支援等の参加表明が寄せられている。	通年	福岡市 佐賀市 ほか	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計) 広報	○公益財団法人パブリックリソース財団様のご協力により、オンライン寄付サイト「Give One(ギブワン)」で「不治の病」1型糖尿病の子どもたちを助けたい! 根絶のための研究にご支援をお願いします」と題して、1型糖尿病研究基金への寄付をお願いした。	通年	福岡市 佐賀市 大津町	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計) 広報	○ヤフー株式会社様のご協力により「Yahoo!ネット募金」で、膵島移植やバイオ人工膵島移植をより安全で効果を持続させる「マクロカプセル化膵島」の開発を支援するため「年間1,600回の注射を打ち続けなくてはならない「不治の病」の子どもたちに「治る」希望を」と題して、1型糖尿病研究基金への寄付をお願いした。	通年	福岡市 佐賀市 大津町	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計) 広報	○日本IDDMネットワークを指定して佐賀県庁へふるさと納税をしていただいた方々へ、佐賀県の患者家族によるこだわりの品(有田焼、有明海産海苔)、1型糖尿病根絶の取り組みに共感頂いた佐賀の生産・加工業者の方々によるこだわりの品(農産物、伝統工芸品等)、をお礼として送付した。	通年	佐賀市 唐津市 伊万里市 鹿島市 小城市 嬉野市 神埼市 みやき町 有田町 白石町 太良町 ほか	7人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計) 広報	○「ふるさとチョイス」(株式会社トラストバンク運営)と協働し、佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税(寄付)で、山川孝一国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構レーザー医療応用研究グループリーダーが中心となって進めている針を刺す必要のない血糖値センサーの開発への支援を呼びかけた。 目標:25,000,000円 実績:26,677,842円 1121人からの支援申込あり	2019年 2月20日 ~ 9月30日	佐賀市 大津町 ほか	6人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計) 広報	○「ふるさとチョイス」(株式会社トラストバンク運営)と協働し、佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税(寄付)で、霜田雅之国立国際医療研究センター研究所膵島移植プロジェクト長が中心となって進めている臨床応用を目指したバイオ人工膵島移植の開発並びに小玉正太福岡大学基盤研究機関再生医学研究所所長が中心となって進めている臨床応用にむけたバイオ人工膵島の長期生着に関する研究への支援を呼びかけた。 目標:20,000,000円 実績:29,118,000円 899人からの支援申込あり	11月1日 ~ 1月31日	佐賀市 大津町 ほか	6人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計) 広報	○「ふるさとチョイス」(株式会社トラストバンク運営)と協働し、佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税(寄付)で、村田敬国立病院機構京都医療センター糖尿病センター医長が中心となって進めている低血糖激減プロジェクトへの支援を呼びかけた。 目標:10,000,000円 実績:11,109,500円 359人からの支援申込あり	2月12日 ~ 3月31日	佐賀市 大津町 ほか	6人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計) 広報	○「ふるさとチョイス」(株式会社トラストバンク運営)と協働し、佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税(寄付)で、永淵正法佐賀大学医学部 肝臓・糖尿病・内分泌内科特任教授が中心となって進めている1型糖尿病を引き起こすウイルスワクチン開発への支援を呼びかけた。 目標:20,000,000円 ※支援呼びかけ中	4月24日 ~	佐賀市 大津町 ほか	6人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計) 広報	○ふるさと納税のPRパンフレットを19500部作成した。	10月 6月	3人	福岡市 佐賀市 大津町	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計) 広報	○第5回ふるさとチョイス大感謝祭に出展し、1型糖尿病や当法人指定のふるさと納税についてPRを行った。	11月16日 11月17日	横浜市	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計) 広報	○ミクスonlineにおいて、当法人のふるさと納税を活用した研究助成の取り組みが「糖尿病患者支援団体・日本IDDM ふるさと納税活用し佐賀大などに研究費助成」として紹介された。	7月3日	佐賀市 大津町	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計) 広報	○月刊誌Monthlyミクス2019年8月号において、当法人のふるさと納税を活用した研究助成の取り組みが「糖尿病研究 ふるさと納税活用で下支え」として紹介された。	7月31日	佐賀市 大津町	2人	36万人	

2 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	ORCCラジオ「新里カオリのうららか日曜日～スローライフしませんか～」において、当法人指定のふるさと納税が紹介された。	12月22日	安城市 福岡市	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○時事通信社発行「厚生福祉」で、当法人の「ふるさと納税活用で研究資金募る」取り組みが紹介された。	3月24日	佐賀市	1人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○サイエンスフォーラム2019 in 東京について、共同通信社により配信され、千葉日報、中部経済新聞、岐阜新聞に掲載された。	7月7日 7月19日 7月20日	東京都	1人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○糖尿病ネットワーク(創新社運営)において『1型糖尿病を治る病気にする』日本IDDMネットワークの活動「根治・根絶を目指す」として1型糖尿病根絶の取り組みが紹介された。	7月16日	佐賀市	1人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○第2回山田和彦賞を坂口志文大阪大学免疫学フロンティア研究センター実験免疫学・特任教授、栄誉教授に授与(副賞1,000万円)することとし、大阪大学中之島センター佐治敬三メモリアルホールにおいて「第2回山田和彦賞授賞式ならびに記念講演」を行った。この時の模様は、朝日新聞(9月19日付)において「制御性T細胞発見の坂口氏に賞」1型糖尿病支援団体として掲載された。	9月16日	大阪市	27人	91人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「1型糖尿病研究基金」で研究助成を行っている研究室を訪問し、先端研究について直接研究者から聞くとともに、寄付がどのように研究現場でいかされているのかを見るため国立国際医療研究センター研究所(霜田雅之-隣島移植プロジェクト長)を訪問した。	9月24日 11月21日	東京都	12人	17人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○当法人に対する応援メニューを掲載したクリアファイルを5000部作成した	10月	佐賀市 大津町	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○インスリンを使用しない1型糖尿病の新規治療法開発を目指す名古屋大学において、「循環型研究資金」による資金提供の記者会見を行い、共同通信社、毎日新聞、朝日新聞、NHK名古屋放送局等で取り上げられた。	11月12日	名古屋	5人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○世界糖尿病デーに「TポイントでできるYahoo!ネット募金100人チャレンジ」を行い、100人の方から60,471円の寄付を頂戴した。	11月14日	福岡市 熊本市	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○糖尿病ネットワーク(創新社運営)において『1型糖尿病を根治する「バイオ人工隣島移植」患者と家族を注射から解放 日本IDDMネットワーク』として1型糖尿病根絶の取り組みが紹介された。	11月20日	佐賀市	1人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○甲子園球場において1型糖尿病研究基金への寄付金贈呈式を開催し、阪神タイガースの岩田稔投手から今シーズン3勝分の30万円が寄付され、その様子が阪神タイガース公式サイト並びにデイリースポーツ、サンスポ、スポーツ報知、スポーツニッポンで取り上げられた。	11月23日	西宮市	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「もう注射を打たなくていいよ」2025年までに「不治の病」の根治を目指し、マンスリーサポーター100人募集！キャンペーンを行い、期間中に62人が新たに参加された。	11月29日 ～ 1月6日	安城市 佐賀市 大津町 ほか	11人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○5年目となる全国的な寄付啓発キャンペーン「寄付月間～Giving December～」の賛同パートナーとして、1型糖尿病の「根絶」を目指し歳末寄付を会員ほか関係者へお願いした。	12月	福岡市 佐賀市 ほか	6人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○第9回大阪マラソンにチャリティ寄付先団体(チャレンジパートナー)として参加した。	12月1日	大阪市	6人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構関西科学研究所において研究助成金贈呈式を開催し、朝日新聞(12月17日付)に「針を刺さずに血糖値測定を 糖尿病患者団体が研究費助成」として掲載された。	12月10日	木津川市	6人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○三林浩二東京医科歯科大学生体材料工学研究所センサ工学分野教授の研究成果「皮膚ガスに見える化―皮膚表面から放出される微量な血中揮発性成分の高感度リアルタイム画像化に成功」が公表され、この研究が当法人の支援のもとで行われた旨が東京医科歯科大学のプレスリリース等で紹介された。	12月25日	東京都	1人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○朝日新聞において、『治療研究に助成、利益は循環 糖尿病患者団体の「投資』』と題した記事で、当法人の1型糖尿病の根治に向けた循環型研究資金の取り組みについて掲載された。	1月9日	佐賀市 ほか	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○北日本新聞において、「1型糖尿病に新たな治療法確立へ 富山大附属病院、国内初臨床試験」と題した記事で、富山大附属病院の中條大輔特命教授の研究が紹介され、当法人からの研究助成について掲載された。	1月12日	安城市	1人	36万人	

2 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 広報	○生命保険に加入した上で、信託会社と死亡保険金を信託する契約を結び、信託金の受取人を当法人に指定することで、自分が旅立った後、遺贈寄付を行うことができる生命保険信託による寄付の仕組みを紹介したチラシを10000部作成した。	2月	佐賀市	1人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 広報	○「低血糖を減らし1型糖尿病患者の命を守る世界初の臨床研究(京都医療センター)」に600万円を助成をすることし贈呈式を開催した。	2月13日	京都市	7人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 広報	○「臨床応用にむけたバイオ人工膵島の長期生着に関する研究(福岡大学)」に1000万円を助成をすることし、贈呈式を開催した。	3月18日	福岡市	8人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 広報	○「臨床応用を目指したバイオ人工膵島移植の開発-各施設と複合的な連携体制を目指して-(国立国際医療研究センター)」に1000万円を助成をすることし、贈呈式を開催した。	3月25日	東京都	8人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 広報	○朝日新聞社のクラウドファンディングサイト「A-port」で、ヒト以外の動物の体内でIPS細胞からヒトの膵臓をつくるための研究への支援を呼びかけ、HUFF POST日本版、日刊スポーツ、デイリースポーツに掲載された。 目標:10,000,000円(第一目標額:5,000,000円) 実績:10,478,333円 554人から支援申込あり	3月30日 ~ [7月27日]	佐賀市 大津町 ほか	9人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 広報	○「岩田稔基金」の助成先として、浅原俊一郎神戸大学医学部付属病院糖尿病・内分泌内科助教の「エクソソームによる膵β細胞保護・増殖効果の研究」へ400万円決定について、スポーツニッポン、日刊スポーツ、サンケイスポーツ、デイリースポーツ、中日スポーツ、スポーツ報知、中日新聞、時事ドットコムに掲載された。	5月18日 5月19日	安城市 福岡市 佐賀市 大津町	4人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 広報	○遺贈・相続財産の寄付をお願いするパンフレットを10000部作成した。	6月	佐賀市 ほか	4人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	<主な寄付金収入実績>					
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○毎月定額(1口1,000円)で当研究基金のサポートをいただく「ノーモア注射マンスリーサポーター」から寄付を頂戴した。 サポーター数:380名で857.5口 寄付金額:8,772,500円	通年	全国各地	11人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○コカ・コーラグループ各社様、(株)伊藤園様、サントリービバレッジサービス(株)様、(株)ジャパンビバレッジホールディングス様、(株)ベネフレックス、FVジャパン(株)様、(株)TGサポート様、(特非)ジャパン・カインドネス協会様、大塚ウエルネスペンディング(株)及び難病・慢性疾患患者支援自動販売機を設置いただいた皆様のご協力により、その飲料売上額の一部が当研究基金へ寄付された。 設置台数:67台 寄付金額:1,522,625円	通年	仙台市 つくば市 下野市 上里町 千葉市 市原市 東京都 新潟市 三條市 柏崎市 燕市 富山市 白山市 福井市 小浜市 鯖江市 越前市 南越前町 おおい町 名古屋 一宮市 京都市 綾部市 枚方市 門真市 東大阪市 姫路市 岡山市 福山市 佐賀市 大分市 肝付町	5人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○(株)バリューブックス様の協力で家庭や職場に眠っている古本を提供いただく「ノーモア注射～希望の本プロジェクト」により寄付を頂戴した。 冊数:7,962冊 寄付金額:185,560円	通年	全国各地	6人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○株式会社バリューブックス様及びTMコミュニケーションサービス株式会社様の協力で家庭や職場にある書き損じ・未使用のハガキを提供いただく「書き損じハガキプロジェクト」により寄付を頂戴した。 枚数:5,769枚 寄付金額:174,603円	通年	全国各地	6人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○ソフトバンク株式会社様のご協力で、スマートフォン等から寄付できる「つながる募金」により寄付を頂戴した。 寄付金額:816,044円	通年	全国各地	3人	36万人	

2 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	OTMコミュニケーションサービス株式会社様のご協力で、不用品の買取価格に10%が加えられた金額をいただく「お宝エイド」により寄付を頂戴した。 寄付金額:460,640円(書き損じハガキプロジェクト分を含む)	通年	全国各地	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○第9回大阪マラソンのチャリティ寄付先団体(チャレンジパートナー)に選ばれ、チャリティランナーによる寄付、募金箱に寄せられた寄付等を頂戴した。 寄付総額:2,645,620円	(2019年 4月5日 ~ 12月6日)	全国各地	5人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○カバヤ食品株式会社様から例年「カバヤ・オハヨーグループ さくらまつり」収益金の一部が寄付されているが、新型コロナウイルス感染症の影響で今年は中止になったにもかかわらず「ジュースCグルコース」を応援する社員の方々のおかげで今年も寄付を頂戴した。 寄付金額:200,000円	4月10日	岡山市	2人	36万人	

(2) その他の事業 該当なし

(3) その他

- 総会:通常総会を2019年8月24日名古屋市で開催
- 理事会:第34回理事会を2019年12月26日福岡市で開催